

わか草



第56号 令和2年10月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

行事

病棟遠足代替行事

今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、病棟遠足など外出を伴う行事を年度途中で代替企画に変更しました。少しでも外出気分を味わっていたらと「キャンプ」「調理」「水族館」「映画」の四つのイベントを各病棟・通所ごとに企画し、院内様々な場所を利用して実施しています。



キャンプ体験「コーヒータイム」



映画体験

◆水族館◆最初にエアトランポリンに乗り、バスのように揺られながら水族館に到着！水族館には、スクリーンに映し出されるペンギンや魚の群れに圧倒されました。
◆映画◆「ローマの休日」を観てオードリー・ヘプバーンの可憐さに見とれました。
(療育部)



水族館体験



調理体験



金魚すくい



夏らしく大変身



かき氷、ゲームコーナー



行事

夏祭り

今年度は例年行われていた「花火を楽しむ夕べ」を開催することができませんでした。その代わりに「夏祭り」を企画し、病棟の日中活動の一環として実施しました。太鼓を囲んでの盆踊り大会、ゲーム、金魚すくい、ヨーヨー、かき氷など夏祭りの雰囲気を楽しみました。皆様盆踊りや金魚すくいに夢中でした。
(療育部)

コロナ禍での新企画行事の形

療育部長 村田 千幸

九月中旬になり、やっと秋らしい風を感じられるようになりましたが、例年にも増して暑さを感じた夏でした。そのうえ、大型台風の影響、集中豪雨と、私たちは未曾有の自然災害もいくつも体験しています。

中でも「新型コロナウイルス感染症」は、国民の生活そのものを変えたといっても過言ではありません。「コロナ」という言葉を聞かない日はなく、目に見えないウイルスのため、世界中の人々が恐怖の最中にあります。 避けば、昨年度末、今年八月に開催予定だった「東京オリンピック」を思いっきり楽しもうと、生活支援員は様々な計画を検討していました。しかし、今年度に入ってから事態が一変、四月七日の緊急事態宣言、オリンピックの開催延期が決定され、三密回避の日常が必要となりました。

東部療育センターにおいても、例年行っている「病棟遠足・通所バスハイク」「花火を楽しむ夕べ」等の行事内容の変更が求められ、利用者の皆様も外出の機会が奪われてしまいました。「病棟遠足・通所バスハイク」は、利用者の皆様が最も楽しみにしていた行事で、病棟・通所の生活支援員が、例年二月頃にはバスハイクの行き先、グループを検討し、五月に第一陣が出發します。コロナ禍の中でも、何とか



キャンプ体験のようす

実施できないものかと願っていました。が、「緊急事態宣言」を受け断念せざるを得ませんでした。
◇ 新しい生活様式

そこで、改善の策としてアイデアを出し合い、夏を意識した企画として「キャンプ体験」「水族館体験」「映画体験」「調理体験」の四企画を決定しました。「キャンプ」は本格的にテントを張り、DVDではありませんが効果音や景色、職員もカーボーイハットやバンダナを着用し、キャンプの雰囲気作り工夫を凝らしました。「調理」ではカレー作りを体験し、病棟中がカレーの香りで満たされました。



ハンモックやせせらぎの映像を楽しみました

また、全国的に多くの花火大会が中止となりましたが、東部療育センターも例外ではありませんでした。ドーンと体中に響く炸裂音と、漆黒の夜空に輝く色とりどりの花模様は、全身で楽しめる行事であり本当に残念でした。そこで代替案として、夏を感じていただけるように病棟・通所において「夏祭り」を企画しました。屋台の雰囲気やヨーヨー、金魚すくい等を楽しみました。そして、やはり夏は花火！部屋を暗くしプロジェクトを通して、全国の有名な花火を鑑賞していただきました。

秋にはオータムフェスティバルがあります。例年、外部からお客様も迎え、プレイルームや外来スペース、中庭までセンター全体を使って楽しくやっています。しかし、今回は内容を変更し季節を感じられる企画で、「秋の収穫祭」を行うことになりました



夏祭り「ヨーヨー」

写真につきましては、掲載の許可をいただいております。

現在外出ができない状況の中で日々活動を行っています。
ペランダでの散歩、日光浴、オータムフェスティバルに向けての創作活動、水遊び、グループ活動や誕生会を行っています。
(療育部)



病棟「誕生日会」



乳幼児「野菜の種まき」



乳幼児「プール」



病棟「エアトランポリン」



病棟「創作活動」



消火器取扱い訓練

九月九日水曜日、当センター全体を対象とした総合防災訓練を行いました。
緊急地震速報が入り、直後に和歌山沖付近を震源とした震度六強の南海トラフ地震が起ころという想定で実施しました。新型コロナウイルス感染症の蔓延により密を避けたため、例年に比べ小規模な訓練となりましたが、城東消防署東砂出張所消防署員の方々が見守る中での訓練となりました。
今回は、本震後に津波特別警報が発令された想定で、利用者を一階通所から二階へ避難搬送する訓練をレサシアン(医療訓練用人形)で行いました。また、ライフライン停

止による人工呼吸器の電源確保のための非常用予備電源への接続及びポータブル発電機作動訓練なども行いました。訓練終了後の消防署員からの講評では、「災害発生時には、人員(利用者、職員等)の負傷の有無を把握し、建物、ライフラインの被害状況を集約することが重要」との指摘がありました。講評後、職員通用品前で消防署指導の下、水消火器による消火訓練を行い、訓練が無事終了となりました。防災訓練時には非常放送が入るなどご迷惑をお掛けしますが、災害時に備える大事なものですので、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

(防火・防災対策委員会)



通所利用者避難搬送訓練



加我院長(前列中央)と受賞者の皆さん

七月二十二日に日本重症心身障害福祉協会の永年勤続者十六名の表彰式が行われました。
(庶務係)

部門紹介 防災センター

防災センターは、建物一階東側正面玄関前の駐車場に面した場所に位置し、来訪者(面会者、業者等)に対する出入管理を二十四時間毎日、急患を含め実施しています。



防災センターの皆さん

最近では、感染症予防対策として検温と健康確認や、宅配便等の検品と授受など配達物の保管と管理も臨時に行っています。室内では、常時三十台の監視カメラからの映像を記録し、八台の人体感(赤外線)センサーを活用して警戒しています。院内における身障者トイレ等、五十六箇所に設置の「EMコール」やエ



丸椅子を使用しての不審者対応訓練の様相

レベーター五基に備え付けの「非常電話」の突然の呼出しにも瞬時に対応します。火災の備えとしては、設置された自動火災報知設備からの信号を防災センターで受信したり、災害時に適切な案内が出来るよう、非常放送設備を使用した防災訓練を実施し、練度の向上に努めています。

また、突発事態への対応として「さす股」や「警戒棒」を常備して日夜警備警戒活動を行って利用者様等の安全・安心に微力ながら寄与させて頂いております。

(防災センター 小松)

東部あれこれ 夏のセンターの動きです。

【七月】

七月は梅雨前線が停滞していた影響で、東京では連日雨が降り続き、雨が降らなかった日はわずかに一日だけでした。降水量が三十日あったのは統計開始以来最多でした。全国的にも長雨と日照不足で野菜の生育が遅れて、価格が記録的冷夏だった一九九三年の高値を超えたそうです。

【八月】

東京の梅雨明けは例年よりも遅れて八月一日で変わって厳しい暑さが続きました。最高気温が三十五度以上になる猛暑日が十一日もあり、八月の観測史上最多となりました。

暑い夏には盆踊りと花火で夕涼みをしたところですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、恒例の「花火を楽しむ夕べ」も中止になりました。でも、各病棟や成人の通所では工夫を凝らした「夏祭り」が行われ、全国の花火大会の映像を観たり、綿菓子づくりや盆踊りなどを楽しみました。病棟では、水族館や映画館を体験するお楽しみ会も開催しました。また、職員にとっては、Webによる学会や研修への参加が増えてきました。

一方、都立墨東病院の医師への研修を行ったほか、上智大学の看護実習生を受入れるなど、将来

の医療人材の育成にも協力しています。

【九月】

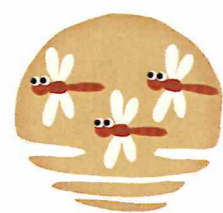
九月に入っても真夏日や猛暑日が九日もありましたが、下旬には過ごしやすくなりました。また、九月上旬には大型で非常に強い台風九号と特別警報級の台風十号が立て続けに九州の西側を通過し、関東地方では台風十二号が接近しました

【編集後記】

新型コロナウイルス感染症が収束しないため、この夏は猛暑が続く中、マスク着用という不健康な生活が強いられました。また、利用者の皆様は外出などが制限されていましたが、例年の行事に替えて、写真でご紹介したような工夫を凝らしたさまざまなイベントが実施され、楽しいひと時を過ごされました。

九月は防災月間です。「部門紹介」では、台風や地震、火災や不審者などから当センターの安全と安心を守るため日夜地道に活動している防災センターをご紹介します。ありがとうございました。

(事務長 松浦)



が二十四日には東海上に進んだため、直撃を免れてほっとしました。病棟では、キャンプ道具を使って日常ではできないことに挑戦したり、外気浴を楽しみむキャンピング企画などを体験しました。
(事務長 松浦)